

平成28年度 学校自己評価システムシート（県立浦和高等学校 定時制課程）

目指す学校像	社会的自立を目指し、未来を拓く青年の育成
重点目標	1 生徒個々に対応した学習活動を展開し、基礎学力の定着と主体的な学習意欲を高める。 2 キャリア教育・進路指導をより充実させ、意欲的な進路意識の確立と将来展望に基づく進路決定に導く。 3 全ての教育活動を通じ、社会の一員としての自覚と責任、主体的行動力を育成する。 4 組織的かつ計画的に、開かれた学校づくりを進める。

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえた評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	2名
	生徒	3名
	事務局（教職員）	9名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価						学校関係者評価	
年度目標				年度評価（3月3日現在）			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	・基礎学力の定着とさらなる学力の向上が本校の課題である。しかし、生徒個々の学力差も大きく、そのためにもさまざまな学習活動の工夫により多様な生徒への対応が望まれる現状にある。	・生徒個々への学習指導体制の充実と学校生活に自信とやりがいを持った生徒の育成を目指す。	①ティームティーチングの効率的な活用 ②学習サポーターの補習への活用 ③資格取得・就職、進学に対応した模試の実施 ④生徒に対する学習アンケートの実施 ⑤多様な生徒への対応のため、特別支援教育体制の充実	①各授業において個々に対応した工夫を実践 ②基礎学力定着テストによる定着度の検証 ③資格取得者数と進路決定率 ④90%以上の生徒が「授業にしっかり取り組んだ」と回答 ⑤特別支援コーディネーターとの連携と教材の活用	個々に対応した学習活動の展開が定着化し、様々な主体的な学習意欲向上の工夫が展開されている。 ①国語・英語で、生徒の抜き出し授業実施。全ての教科において学習サポーターを配置 ②定着度中1以上37.5%（算数指標） ③進路決定率65% ④回答90% ⑤大宮工業高SCを講師に教育相談研修会・SST授業を実施。浦和特別支援コーディネーターと年間を通じて連携	B	T.Tや抜き出し授業、学習サポーターの活用により、生徒個々の学習意欲向上への体制は整いつつある。しかし、基礎学力の定着度などからは、まだその効果が十分に表れていないと考えられ、今後より工夫が必要である。また、多様な生徒への対応としてSST授業を導入次年度も継続的な活用が望まれる。さらに、資格取得においては取得者がなく来年度へその推進が課題である。
2	・昨年度からの本格使用となった「進路の手引き」は今後の有効的な利用のために内容の改善・再検討が必要である。 さらに生徒の進学・就職支援を充実し進路意識の向上を図り、進路実現につなげることが今後の課題である。	・4年間を通して系統的なキャリア教育・進路行事等を組織的におこない、各種の学校行事との円滑で効率的な連携を目指す。	①進路の手引きを利用した効率的で効果的な進路指導の推進。 ②外部教育力を活用したキャリア教育の推進 ③生徒の長期休業中等での学校見学や企業説明会参加を推進 ④地元企業や県支援事業を利用した就労（アルバイト含む）を積極的に支援 ⑤生徒に対する進路に関するアンケートの実施	①進路の手引きに則した学年ごとの指導計画の実施状況 ②生徒の進路決定率とアンケート結果 ③参加状況の調査 ④生徒の就労率65% ⑤90%以上の生徒が「自分の進路について考えている」と回答	キャリア教育の充実を図り、高い進路意識を確立するシステムが充実してきている。 ①学年ごとの利用が定着 ②進路決定（4年）進学24%就職41% ③4年生の半数以上が、オープンキャンパス・企業見学に参加 ④県支援事業「農業体験」1名参加 就労率61%（アルバイト） ⑤回答72%	A	進路の手引きについては、その利用法は定着した。今後は、引き続き改善と再検討を行い、改訂版の作成が今後望まれる。また、進路意識アンケート結果から生徒の進路意識は、ここ数年変化がなく目標数値に届かない。今後は外部教育力のさらなる工夫と新たな試みの導入等により生徒の意識向上が課題である。
3	・毎日の登校・巡回指導や生徒会中心の生徒行事の運営、さらに食育指導は、生徒の公共心を養うことに高い効果を表している。 しかし社会に貢献できる主体的な行動力という点ではまだ十分とは言えない。今後さらに意識向上のための工夫が課題である。	・公共心を持ち、社会の一員としての自覚と自ら行動する積極性を身に付けることを目的に、多様な教育活動を充実させる。	①様々な場面において、公共心意識させた指導を徹底 ②各種学校行事において、生徒の主体的な活動場面を増やす。 ③給食指導等を通して「食育」指導を充実、食の大切さ、命の重さを指導する。 ④学校周辺清掃活動を定着させ、生徒の関心を高め、参加を促す。	①90%以上の生徒が「授業中や給食の時にルール・マナーを守っている」と回答 ②昨年度より生徒の参加した行事が増加したか検証 ③90%以上の生徒が「食に関する命の営みを理解した」と回答 ④1回平均参加率20%以上	生徒自ら規範意識を高める働きかけを教員が補助することにより、公共心・規範意識共に向上している。 ①回答98% ②今年度「ドイツ大使館訪問」「中国大使館による講演会」を追加 ③回答90% ④平均21% ※第3回より領家5丁目自治会との合同企画（年8回実施）	A	生徒会による学校スローガンの設定等生徒自ら考え行動する場を提供した結果、公共心や規範意識は向上し、生徒自ら考え行動できる場面が増えた。今後継続が望まれる。また、大使館との連携事業や地元との共同ボランティア活動に積極的に参加する生徒の姿が多く見られた。今後のこのような外部機関との連携を密にし、生徒を刺激し続ける工夫が必要である。
4	・保護者会への参加希望は多いが、実際の参加率はその半分程度である。今後保護者の参加しやすい時期や内容を検討していく工夫が必要である。また、中学校との連携を維持・強化することが課題である。	・情報発信を基盤に保護者や中学校との連携体制を構築する。	①公開行事等において、保護者参加型の講演会等を多く計画 ②長期休業等での中学校訪問を活用し、中学校との連携体制を強化 ③保護者対象のアンケートを実施 ④学校HPの定期的な更新と内容の改善	①保護者対象の講演会等以前年度を上回る保護者が参加 ②授業公開における中学校関係者の来校者数と中学校訪問数 ③保護者会に「参加した」と「参加したい」の%の検証 ④更新回数と複数の学校視察の受入	保護者会等への出席者の固定化は見られるものの、活発な活動が継続できている。中学校との連携にも公開授業への参加等効果が上がっている。 ①参加者昨年度比10名増加 ②授業公開来校者数去年比3名増 ③アンケート結果、全体の25%が参加したいができていないと回答 ④HPトピックス更新回数55回 視察：4件（他県定時制高校等）	A	アンケート結果より、保護者会に参加したくてもできていない保護者はまだ多く存在する。今後引き続き参加しやすい内容や参加時期について検討していく必要がある。また、中学との連携も密にし、公開授業等でより多くの参加者が得られる工夫が必要である。

実施日	平成29年3月4日
学校関係者からの意見・要望・評価	
T.Tや抜き出し授業によって、生徒個々への対応をしていることは素晴らしい。職員の負担もあるだろうが、是非続けてほしい。また、学習サポーターに教員志望の大学院生を活用しているとのことだが、学生にも定時制の生徒にも良い刺激となっている。この体制が維持できるように努力してほしい。さらに、生徒のニーズに応えて、SST授業を計画し実施していることは評価できる。	
社会性を身に付けるためにも、規則正しい生活習慣を身に付けるためにも、昼間の時間でのアルバイト等の就労を推進していることは大切である。SSTやアルバイトの指導・農業体験などを通して、生徒のコミュニケーション能力を向上させ、進路実現に結びつける地道な努力を今後と続けていってもらいたい。また、キャリア教育等の工夫により生徒の面倒をよく見ている。	
ボランティア清掃やその活動を地域の自治会と共同で行っていることは素晴らしい。学校外部にアピールすることは大切である。また、生徒へのプライド作りにも役立っていると考えられる。しかし、参加率目標値平均20%は、活動が始業前であり、アルバイト等で参加できない生徒が多いとはいえ、もう少し高い目標値を設定し、参加率をあげる工夫も必要であろう。	
保護者会が定期的開催できていることは素晴らしい。試食会を学期ごとに開催するなどの工夫も評価できる。さらに家庭との連携に努めてもらいたい。また、保護者会で、そのメリットを参加者に伝えるためにも、卒業生の保護者に体験談を話してもらうなどの工夫をしてはどうか。地道で気長な努力が必要であるが、今後も色々な工夫を続けてもらいたい。	